

製品紹介 New Products

空港気象ドップラーレーダー観測処理システム Airport Doppler Radar Administration System

1. 概要

気象庁仕様に基づき、当社が設計・製作及び納入した、空港気象ドップラーレーダー観測処理システムは、航空機の離着陸に危険を及ぼす風の急激な変化を探知するため、国内の主要空港に設置されている空港気象ドップラーレーダー（以下DRAW）及び空港気象ドップラーライダー（以下LIDAR）の観測データを、気象庁専用回線網を介して収集・収録し、必要なデータ処理及び各種プロダクトの作成を行った後、情報通信システムへ配信することで、航空機運航における安全・安心に寄与するシステムである。

今回新たに整備された二重偏波方式DRAWから偏波情報を取得し、各種気象情報に処理する機能を実現している。

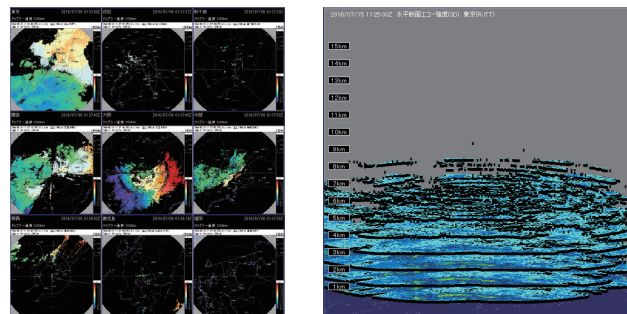
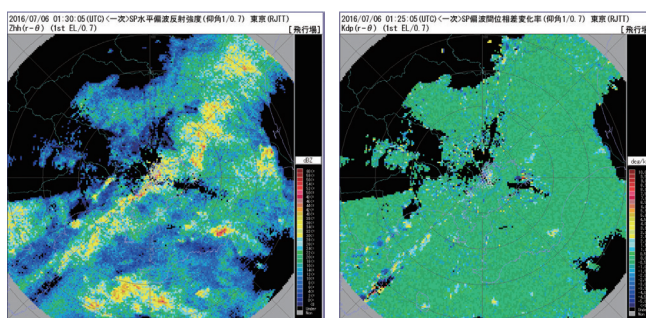


センターシステム
Center System

バックアップシステム
Backup System

2. 特長

- (1) センターシステム（東京）とバックアップシステム（大阪）から構成され、地域的な冗長化を確保
- (2) センターシステムはデュアルシステムで、運用中の系で障害が発生した場合でも、データ抜けが発生しない構成
- (3) センターシステム及びバックアップシステムの操作及び監視は、操作端末（気象庁本庁）より可能
- (4) DRAW（9基）及びLIDAR（4基）による観測データを収集・収録し、処理・配信可能。
- (5) DRAWの監視情報を収集、及びDRAWへ制御情報を送信することにより、各DRAWの遠隔制御が可能
- (6) 二重偏波方式DRAWに対応、偏波情報を取得して各種気象情報に処理する機能を実現、データ量の増大に対応
- (7) 雷監視システムの観測データや数値モデルデータ等、他のシステムで作成されたデータをオンラインで収集し、収録・配信可能
- (8) 処理性能向上により、従来の収集装置と配信装置を通信制御部として一元化



プロダクト例
Sample Product

3. 仕様

項目	仕様
センターシステム/バックアップシステム	
サーバ数	センターシステム：22（3架） バックアップシステム：9（2架）
サーバOS	Linux
大容量ハードディスク	3TB×16
データ集配信方式	TCP/IPソケット通信及びFTP通信
データ形式	バイナリデータ及び画像データ

(参考) 航空機の離着陸時における風との関わり
http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kouku/2_kannsoku/23_draw/index8.html

納入時期 2016年3月
お問合せ先 関東支社官庁営業課
電話 03-6832-1747